

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900050		
法人名	社会福祉法人 三次市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームみらさか		
所在地	〒729-4303 広島県三次三良坂町灰塚37番地12 (電話) 2824-44-3738		
自己評価作成日	平成28年1月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=3491900050-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・介護予防に努めており、毎日の介護予防ラジオ体操・健康踊りを実施しています。・家族との外出が可能になるように、毎月1回昼食を外食しています。（冬季の除き）・毎月1回地域住民と入居者が交流する場面がある。（冬季を除き）
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームみらさかは、住宅団地中央に位置し近隣にコミュニティーセンターや民族資料館・お寺があり、とても良い環境に位置している。町内会に入っていて、清掃活動や地域の盆踊り・敬老会・開村記念日には、職員・利用者が参加して地域と交流している。ホーム建物に市営のトレーニングルームがあり、地域住民を対象にした介護予防教室が行われ多くの方が参加されている。ケアプランは利用者・家族の要望を取り入れ、担当者とケアマネとで作成している。さらに、利用者の心身状況に適した対応・意向を、毎日の状態把握・観察・支援により汲み取り、利用者個々に見合った目標を検討して作成している。利用者の介護レベルの低下防止の為に、施設内の2ユニットある廊下を職員の見守りの中、リハビリを兼ねての歩行訓練を実施し、皆さんがとても元気で笑顔が絶えない状態を維持している。

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 もみじユニット					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・地域の中の1家庭として、常会にも加入し地域の行事、催しに積極的に参加する。 ・ユニット職員全員で理念を考え、業務着任時に確認できるように掲示し、理念の徹底を図っている。	外に出る機会と地域との繋がりを大切に利用者に寄り添い、その人らしい生活の支援を目指して、ユニットごとの理念「笑顔でくつろぐもみじ」「まるで我が家に居ようなさくら」を事務所とステーションに掲示し、実践に取り組んでいる。ユニット会議では、理念について話し合い管理者・職員は理念を共有し毎日のケアに活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域常会に加入することで行事や集いに参加している。保育所へのミニコンサートの参加 ・地元通信に苑だよりを掲載し、状況報告を発信している。 ・ボランティアの受け入れ（紙芝居等） ・地域交流事業「よりんさい」の開催、冬季を除く1/月	町内会に入っていて、清掃活動や地域の盆踊り・敬老会・開村記念日には、職員・利用者が参加して地域と交流している。町内会の広報誌に、管理者が施設の様子や認知症についての解説を投稿し、地域の認知度を上げるべく努力をしている。施設内に「もみじカフェ」を開催し、職員の方がおもてなしを行い地域と交流している。	現在も有効に活用されていますが、地域交流をもっと深くする為「きんさいカフェ」を地域に知って頂き、催しを企画し有効に活用される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・トレーニングルーム併設にあたり独自事業の実施 ・地域行事に入所者と積極的に参加している。 ・地元通信にスペースをいただき活動報告や認知症を理解していただくための啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・職員、行政、家族、常会役員、地元有識者の構成により2か月に1度開催している。さまざまな議題について意見交換を行い、サービス向上に向け取り組んでいる。	定期開催されている運営推進会議では、市介護保険課高齢者福祉課課長・自治会代表・民生委員・児童委員・のぞみが丘運営協議会会長等に対し、運営報告や活動報告等を説明して、検討する事によりサービス向上に活かしている。さらに、地域の様々な情報を収集する場として活用していく意向を持って取り組んでおり、事業計画の説明や行事報告等を会議に盛り込んでいる。開かれた事業所を目指すと共に、地域の理解を得る事で今後も一層の交流に繋げていこう努めている。	運営推進会議に多くの方が参加されていますが、近々開設された地域包括支援センター職員にも参加頂けるように御案内される事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・市役所支所・包括支援センター等へのパンフレット配布。 ・市と法人との連絡会において、入居状況等報告し、必要な連絡調整を行っている。 ・運営推進会議にて意見交換を行う。	市介護保険課へ相談や施設状況の説明や運営推進会議に参加頂き意見交換し交流している。また、キャラバンメイトの説明会に講師として参加し交流している。地元紙の「はいつか便りに苑長が施設の状況を投稿し地域と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・伝達研修、ユニット会議、講習等で学習し意識の徹底に努める。 ・夜間以外の施錠の禁止、身体拘束の禁止は職員間でも徹底している。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、身体拘束排除・虐待防止の内部研修会・外部研修会を開いた職員が、伝達研修等を行いながら拘束のないケアの実践に取り組んでいる。施設内はユニット間の行き来は自由に出来るように開放し、庭に出たい利用者には職員が付き添い、自由で安全を考慮しながら、自分の思いやいつまでも身体を動かせる事を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	・講習で学んだことを伝達研修、あるいはユニット会議で発表することで意識の向上に努めている。 ・管理者やリーダーが目を配り虐待行為に接触するようなことがあれば直ちに注意し、理解するよう説明している。		

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・法人内に権利擁護機関の設置あり。 入居の際、必要に応じてパンフレットも使い紹介する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・充分時間を取り、納得した上で行っている。 ・改定時は内容を文章により説明し、同意書をいただいている。解約時も今後の事も含め、話し合いを持っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・運営推進会議、家族会などでさまざまな意見交換があり、結果は施設長を中心とする運営会議で検討され職員に徹底される。	日々の会話に心掛け、家族等には面会時や家族会時・運営推進会議時に意見を聞き、来訪されない家族には、定期的に電話や手紙を書き、意見・要望を聞いている。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・職員との面接、ユニット会議への参加により意見、提案を聞きなるべく採用するよう努めている。	日々のコミュニケーションに心掛け、月1回のユニット会議・施設内運営会議等で意見交換を行っている。また、伝達ノートに意見・提案を書き込み検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・毎年、管理者と職員で面接を行う。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・研修の案内は掲示をし希望参加者を募る。 ・伝達研修・研修資料の回覧		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・他事業所より実習の受け入れ		

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・契約前には、面談を行い本人、家族の要望を聞いている。又施設見学をしていただき本人納得の上で契約を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・ケアプランに家族の要望を取り入れている。 ・定期的な連絡や家族会の開催などで意見交換を積極的に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・本人、家族と十分に意見交換し、アセスメントを行っている。その結果サービス計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・ともに生活する場とか考え掃除、料理、クラブ等本人の能力を踏まえ同等の作業、会話をすることを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・家族に定期的な面会をお願いしている。 ・担当者は月1回状況報告書を作成し、家族に送付している。 ・面会の時間が取れない家族には担当者が電話連絡し近況報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・入所者の希望を外食、外食行事に取り入れている。 ・生活の中で手紙を書いていただいたり、会話による情報収集を行っている。	入居者の知人やご近所だった方の面会もあり、定期的な訪問もあり会話を楽しまれている。家族とお墓参りや食事に出かけたり、理容院や美容院に友達と行かれたりしている。行事に参加して頂いたり、散歩途中に会えば挨拶や声掛けを行い、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・平等に声かけを行う一方、何事でも複数で作業を行い、職員が間に入りすることで対人関係を成立させている。 ・孤立化を防ぐためにも出来るだけ共同作業で行動が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・入院等の方には面会等を行い現状把握に努め相談があれば入所者と同様の対応をしている。		

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活の中での会話において情報収集に努めている。それらはケアプランによってサービス提供される事になる。 ・食べたいものを聞き取り、献立に取り入れる	生活の中で話をする機会を大切にし、本人の思いを把握するように努めている。言葉で表現できない方には、表情の読み取り等大切にしている。特に受け持ちする入居者は、より密にコミュニケーションを図り、思いを知るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・センター方式アセスメントによって職員にも徹底されている。又随時、本人、家族に聞き取りを行い追加記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・個人カルテに記入し管理されている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・ユニット会議において、1か月事の統括を行い、次回ケアプランに取り入れている。又定期的に家族の要望を取り入れている。 ・3か月～6ヶ月ごとにケアプランを見直している。 ・急変時や要介護度の変更に併せ、見直す。	ケアプランは利用者・家族の要望を取り入れ、担当者とケアマネとで作成している。さらに、利用者の心身状況に適した対応・意向を、毎日の状態把握・観察・支援により汲み取り、利用者個々に見合った目標を検討して作成している。その際には利用者の入居以前の生活歴や生活環境などの把握に重点を置いており、継続性を持って支援していくよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個人カルテには毎日の生活歴が簡潔に整理されている、翌日出勤者が閲覧する事で情報を共有している。これを参考にケアプランが作成されている。また、家族の要望が優先される。 ・生活援助マニュアルを毎週作成し、職員間で情報共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・発生したニーズはユニット会議で検討され、さまざまなサービスを検討し、実際にあったものが採用されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・地域交流を促進し地域の理解を深めながら、入所者全体の暮らしができるよう援助している。 ・地域行事への参加		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・本人、家族よりの受診要望は出来る限り対応している。又担当医による定期的な往診も願っている。	入居前のかかりつけ医を希望する場合は継続してもらい、協力医の専門外や遠方の場合は、家族に連絡し、受診・往診の協力を仰いでいる。協力医による往診が週1回木曜日に定期的に行われている。訪問歯科医が依頼時に往診している。皮膚科等は家族が受診に連れて行かれ対応している。定期受診以外で受診が必要と思われる場合は、ご家族に相談の上同行して頂いている。	

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・本人、家族からの要望、職員の観察における疾患情報は随時、看護師に報告され担当医へ連絡、指示を受け看護指示を出されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・担当医による定期往診をお願いしている。 ・入院中も担当医からの情報提供を求め面会と合わせて現状把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期には看とりマニュアルに沿った業務が遂行される。 ・家族に看取り介護の説明を行い、承諾していただいている。	重度化した場合における看取り指針に沿ってご家族に説明を行い、随時必要な対応を行っている。ご家族・主治医・職員が情報を共有し、最後までその方らしく生活できるように支援している。病院を希望される方には、希望通りに支援している。看取りはまだ行った事がない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時のマニュアルを作成し、常時見えやすいところに掲示をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている。	・年2回、施設全体での避難訓練を行っている。 ・年1回地域との合同避難訓練を行っている。 ・緊急連絡網の整備を行い、火災時には緊急通報が自動的に行われる。	地域の防災訓練に参加している。年2回の避難訓練を実施しており、1回は消防署立会いの下、地震想定で実施している。避難誘導場所、経路確認、消化器の設置場所・取扱いの確認を行っている。利用者居室入り口には、本人確認名札が設置しており、災害時にはそれを利用し、地域の方に協力して頂ける様に準備が出来ている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・人として人生の先輩として十分尊敬した又、立場を考えた声かけをするようにしている。	接遇マニュアルを作成して、定期的に職員研修を実施している。新人職員教育や職場内研修でも指導し、全職員が対人援助サービスの知識と技術を身に付けるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・一人一人と会話できる機会を持ち、本人の思いを引き出してういる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・ゆっくりとしたペースで生活していただき、その中で本人の希望を取り入れている。		

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・入浴日毎に更衣を行い、職員がその人にあった衣服をコーディネートしている。 ・2ヶ月ごとに、訪問理美容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・本人の能力に合った作業を提供し、一緒に行っている。	利用者の栄養・身体状況や嗜好を考慮し、施設内の台所で調理して温かい食事を提供している。必要に応じて個別に応じた食事形態で提供し、誤嚥防止に十分配慮している。食堂と台所は対面方式のため、常に全体が見渡せ、コミュニケーションが図りやすい状態である。食材のリストアップ、献立の決定、調理、盛り付け、配膳下膳、食器などの洗浄、テーブルまわりの整備などは可能な範囲で主体的に行えるよう支援している。月に1回は外食に出かけ気分転換をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分・食事摂取量を記録し適量を提供できるように努めている。 ・なるべく好みに沿えるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後口腔ケアを実施している。 ・できる人には声かけ、他は能力に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・おむつ減らしを意識した排泄チェック表に記入し管理している。 ・本人の排泄パターンに合ったトイレ誘導を行い、定時自発を目指している。	利用者の表情やしぐさから、排泄のサインが見えたら、さりげなく声かけて、排泄自立に向けてトイレ誘導している。また、個々に排泄チェック表を記録・確認し、排泄状況が把握できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・繊維粉末を便秘の方に使用して頂いている。 ・水分補給の徹底に努める。 ・歩行、昇降運動などを促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・入浴希望は最優先している。 ・排泄汚染があれば、その都度シャワー浴や清拭で対応している。	週に2～3回以上の入浴を行っている。利用者の希望やタイミングに配慮し、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。意思表示が困難な方に対しても、状態を観察しながら入浴を支援している。又、入りたがらない方には、アプローチの仕方を変え、入浴を促している。体調不良の方には、シャワー浴・清拭・足浴等で入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・必要に応じ午睡の時間を設けている。 ・定期巡回により様子観察、温度管理、排泄管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・業務日誌に服薬情報を添付し出勤者は目を通して頂いている。 ・個人カルテ内に医療コーナーを設け、受診、服薬、情報を提供している。		

グループホームみらさか（もみじ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・本人の生活歴に合わせ、クラブ活動を展開する。・散歩、外出、外食を定期的に行う。・毎日の介護予防ラジオ体操と健康踊りの実施。・居室の掃除や食事の準備、片付け、洗濯物干しやたたみ等の役割を持っていただく。・散歩コースの選択、歌を歌う。・畑作業や草とり、水撒きを行う。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・散歩、畑仕事、草とり等は日中であれば常時可能である。 ・外出希望があれば、家族の協力も得てなるべく実行している。	施設前にあるコミュニティセンターの季節の花々を見に出かけたり、近隣にあるお寺・神社に散歩に出かけている。また、月1回の外食には、ラーメン店や回転ずし等に出かけている。買い物には週2回エコープ・直販所に食材を仕入れに職員と出かけている。スーパーへ買物を兼ねて食事に出かけたりしている。花見や紅葉狩りに、三次市内に出かけ戸外に出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・認知証施設故に金品管理の出来る入所者は少ない。 ・出来る限り本人の希望に沿えるよう家族と相談している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・手紙や電話のやり取りは日常的に行なわれている。 ・意思表示が難しい方は面会の促進、担当者からの現状報告を定期的に行っている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・生花、植木、掲示物で季節感を取り入れている。 ・施設内は環境整備され、障害物はほぼ見当たらない。 ・計測器により室温管理を行い除湿機、加湿器、空気清浄機を必要に応じて使用している。	施設は広々とした敷地内にあり、近隣は緑豊かな環境にあり、採光が良く明るい雰囲気の良い建物である。施設内には季節の花や観葉植物や利用者の作品、活動や行事時の写真を飾っている。居室や食堂サロンには、冷暖房・加湿器・除湿器・空気清浄機等を完備し、家庭的な雰囲気の快適な空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・ソファ、畳、長椅子等で居場所づくりをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・家具装飾品などは使い慣れた物があれば持参していただくよう家族に要望している。	居室は利用者が自宅から持ってきた、テレビ・座卓・家具等日常使いなれた物等を持ち込んでいる。又、仏壇や位牌・家族の写真等も持参している。利用者の個性が感じられ、生活感のある場所となっていて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。施設内は毎日と随時に清掃を行い、非常に清潔で快適な状態となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・居室、トイレなど目印をつけ、迷わずいけるように配慮している。			

V アウトカム項目 (もみじ)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームみらさか(もみじ)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 さくらユニット					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・地域の中の1家庭として、常会にも加入し地域の行事、催しに積極的に参加する。 ・各ユニットにおいてキャッチフレーズ(理念)をつくりそれに基づき業務を行う。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・日常の挨拶・会話に努める。 ・常会に加入し地域の行事には積極的に参加している。 ・地元通信に苑だよりを掲載し、状況報告する ・ボランティアの受け入れ(紙芝居等) ・地域交流事業「よりんさい」冬季を除く月1回の開催		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・トレーニングルーム併設にあたり独自事業の実施 ・地元通信へ活動報告や認知症を理解していただくための啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・職員、行政、家族、常会役員、地元有識者の構成により定期的に行っている。さまざまな議題について意見交換を行いサービス向上に向け取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・市役所支所・包括支援センター等へのパンフレットの配布 ・市と法人との連絡会において、入居状況等報告し、必要な連絡調整を行っている。 ・運営推進会議で意見交換を行う。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・伝達研修、ユニット会議、講習等で学習し、意識の徹底に努める。 ・夜間以外の施錠の禁止、身体拘束の禁止は職員間でも徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・講習で学んだことを伝達研修、あるいはユニット会議で発表する事で意識の向上に努めている。 ・管理者やリーダーが目を配り虐待行為に接触するようなことがあれば直ちに注意し、理解するよう説明している。		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>・法人内に権利擁護機関の設置あり。 入居の際、必要に応じてパンフレットも使い紹介する。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>・契約時または解約時には十分な説明を行う。相互理解、同意の上で署名捺印をする。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・管理者、職員は常に利用者や家族の聞き取りを行っている。 ・家族会の開催 ・運営推進会議への家族の参加 ・苦情処理窓口の設置</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・ユニット会議を定期的に設け、運営会議で検討している。 ・毎月、施設内運営会議の開催</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・法人内で年1回職員説明会を設ける ・毎年、管理者と職員で面接を行う。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・研修の案内は掲示をし希望参加者を募る ・認知証実践者研修の受講 ・伝達研修・研修資料の回覧</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>・他事業所よりの実習の受け入れ</p>		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・契約前には面接を行い本人、家族の要望を聞いている。又施設見学をしていただき本人納得の上で契約を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・面接時、時間にゆとりを持って出向き、ゆとり話を聞くよう努めている。 ・ケアプランに家族の要望を取り入れている。 ・定期的な連絡や家族会の開催等で意見交換を積極的に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・すぐの入居にならない場合は、他者のサービス利用を勧める。 ・本人、家族と十分に意見交換しアセスメントを行っている。その結果サービス計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・共に生活する場と考え掃除、料理、クラブ活動等を共同で行い、人間関係を築く、理念に基づき何でも話せる関係作りを推進する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・家族会の開催・施設報の発行・担当者からの随時の連絡を行う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの物品の持ち込み、写真の持ち込みや外出を援助する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・平等に声かけを行う一方で、何事でも複数で行い職員がまず利用者間に入り、よい方向へと導いていく。 ・孤立化を防ぐためにもできるだけ共同作業で行動するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退所希望があれば、次事業所への紹介、申請への援助、生活状況等の情報提供等の連絡を取る。 ・入院等の方には面会を行い現状把握に努め相談があれば対応している。		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・担当者が中心になり、面接、聞き取り観察を行いケアプランに取り入れる。 ・食べたいものを聞き取り、献立に取り入れる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・センター方式アセスメントを活用している。 ・家族より随時聞き取りを行う。 ・生活を通じ普段の会話により本人より聞きとる。 ・居宅介護支援事業者、前利用機関の関係者等との連携を図る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日誌・個人記録記入により、それに目を通すことで職員全体で状況を把握する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・本人、家族からの聞き取り後、ケアプランを作成、職員間のカンファレンスにて修正をする。 ・3か月～6ヶ月ごとにケアプランを見直す。 ・急変時や要介護度の変更は、見直す。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日勤・夜勤者共に個人カルテに生活状況を記録している。 ・利用者の変化に伴い、職員間の話し合いを家族への連絡、相談を経て担当者がケア内容を変更する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・発生したニーズはユニット会議で検討され、さまざまなサービスを検討し対応する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・地元小学校、保育所との交流、地域での運動会への参加 ・地域行事への参加		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・家族が遠方の場合には受診に同行、送迎を行う。一部の利用者については定期受診を依頼している。		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>・看護職員が健康管理、観察を行い担当医と連携調整をして必要な指示を出す。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・地域連携室を活用し連携を行い、本人の病状把握と今後についての調整を行う。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>・重度化した場合、医療設備のある施設を紹介したり、入院が必要と思われる場合は、主治医との連絡、家族との話し合いを密にするよう心がけている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>・緊急時マニュアルを作成し認識している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>・年2回、避難訓練を行う。 ・緊急連絡網の整備を行い火災時に緊急通報が自動的に行われる。</p>		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>・個人情報保護にあわせ同意書を得る。 ・個別カルテ、情報は重要資料として、原則職員以外には公開していない。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>・職員がゆっくりと話を聞くゆとりを持ち、一緒に座って話をするよう取り組んでいる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・本人のペースにより時間差を持ったり声かけを行う。起床後、朝食の会話の中でその日の希望を聞きとっている。</p>		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・理美容については、本人・家族の希望に沿って実施する。 ・その日に着る服は助言し自分で選んでいただく。 ・2ヶ月ごとに、訪問理美容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事準備は利用者の能力に合わせて出来るだけ声かけしながら一緒に行う。片付けも同様である。 ・苑内で献立をたて食べたい物の希望を聞く。 ・誕生日にはセレクトメニューとしている。 ・毎月1回昼食の外食を計画実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・1回の食事量の少ない方には分食の実施 ・栄養サポート食材を摂取していただく ・水分摂取のチェック表を記入して、1日の水分摂取量の確保に努める		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、誘導により口腔内洗浄を行う ・定期的に洗浄剤を使用し義歯洗浄を行う		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・定期的な声かけや誘導を実施する。 ・必要に応じ排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・看護職員が体調管理や水分補給状況、食事摂取状況を確認し、職員へ指示、これを元に職員が食材や水分を検討する。 ・繊維粉末や下剤も併用する		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・1週間に3回のペースにて入浴日を決めるが、必要、希望に応じ可能な限り入浴できる。 ・体調不良時の方は、清拭で対応する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・消灯時間を設けず夜間を自由に過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・利用者別の薬ファイルの棚を設ける。 薬は施設で管理し、服薬準備は看護師が行い、職員が配薬する。 チェック表を設ける		

グループホームみらさか（さくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日介護予防ラジオ体操と健康踊りを行う。 ・散歩コースの選択、歌を歌う。 ・畑作業や草取り、水撒きを行う。 ・居室の掃除、食事の準備、片付け、洗濯干し、洗濯たみ、等の役割を持っていただく。 ・クラブ活動を実施する(畑・手芸・料理・書道) 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭の出入りは自由 ・ドライブ、買い物、外出他に同様の希望があれば可能な限り応じる。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・物品購入は高額でない限り必要に応じ購入いただく。 ・ただし金銭管理は施設で行っている ・毎月外食することを計画、実施する。 ・毎月1回パンの移動販売あり。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が書いた手紙の発送、本人宛の郵便は家族と協議の上本人へ渡す。 ・電話は基本的にいつでも応じる。 		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生花、植木、掲示物等で季節感を取り入れている。 ・窓にはカーテン、ブラインドを設置し外光調整を行う。 ・計測器により室温管理を行い除湿機、加湿器、空気清浄機を必要に応じて使用している。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・畳の設置・ソファー・長椅子の設置 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望により仏壇や家具を持参していただく。 ・畳の準備あり ・本人の希望により絨毯の持ち込み可能。 ・本人が愛用されていた品物を持参していただく。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりの設置。 ・トイレには便所と張り紙をする。 ・トイレの使い方を写真で掲示する。 ・居室入口には名札や写真をはる。 ・必要な方には居室へポータブルトイレの設置 ・タンスには中身がわかるように張り紙をする。 		

V アウトカム項目（さくら）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームみらさか（さくら）

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみらさか

作成日 平成 28 年 3 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーに包括支援センターに入って頂く	充実した施設運営を行う	5月の運営推進会議に参加いただけるように準備、法人内に周知するよう取り組む	平成28年度の開催に参加予定・5月～
2	2	オープンカフェを毎月1回開催して地域の方との交流を図る	地域の方との交流を持ち認知症について知識を持っていただく	平成28年度より開催できる様、法人内に周知し、広報誌を活用して呼びかける。	平成28年度 5月～
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。